

『 転換点に立って 』

副理事長・東京支部長
酒匂 雅信

明けましておめでとうございます。

組合員の皆様、昨年はお忙しい中、組合活動に多数参加をいただき、大変ありがとうございます。本年もよろしく願いいたします。

昨年は希望に満ちた正月だと書きましたが、6月より中国経済の変調、9月より尖閣諸島問題による日本製品の排斥等によって、完全に日本経済も心理面も打砕かれた。予想された物件も出るには出ましたが、設計変更等で半年以上延びるなど、不愉快な年でありました。

政治的にも国内、海外共に多くの問題点がピークに達して、転換点を迎えたように見えた年でもあった。

我々シヤリング工業組合の皆様の実体経済も「夜明けの暗さ」が依然として続いており、トンネルの先が見えてこない状態が続いておりました。

しかし一方、政府も民主党政権から自公民政権に代わり、公共投資による国土強靱化を進め、円高是正とインフレ率2%目標を達成すべく、金融緩和と12兆円規模の補正予算を組むということで、夏の参院選に向け、大きく舵を切りました。民間も昨年計画された大規模プロジェクトは確実に進んでおります。

そのような状況の中で、株価が正月に前月比300円上り、円／ドルが90円をうかがう動きになってきました。

冷鉄源様も3万円を突破する勢い、海外市況もホットコイルが600ドルをめざしております。今年度、来年度の鉄骨需要量は、恐らく2年つづけて500万トンを超えるのは間違いないと言われております。

リーマンショック以来、これほど周りの環境が好転したことはなかったかと思えます。

“それがどうした”と言わないで、それらのプロジェクトに、組合員各社が参加出来るようにアンテナを360°張りめぐらし、自社の強みを生かして、努力しましょう。

と昨年と同じ締めでした。“締らない”

(京浜産業(株)・社長)

『 80 歳の初夢 』

理事・東京支部 最高顧問
大川 宏之

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして本年がすばらしい年となりますことを祈念致します。

昨年末の衆議院議員選挙で新政権が誕生しました。私はそれまでの 3 年 3 ヶ月を「悪夢」と総括したいと思います。勿論、事象としていろいろのもの、事が残っています。それらを整理し、分析し、今後の指針とするのは大切かも知れませんが、私は「悪い夢」は忘れて、「日本国の再生」を正夢として格別の思いで本年を迎えました。

「景気」は「気」です。皆で「元気」に「やる気」になれば「一気」に日本国はまた「好景気」を引き寄せると思いたいのです。

少子高齢化といいつつも、まだ 1 億人の日本人が居ます。心を一つにすることです。

問題は悩んで解決するのではなく、多少我慢すべきことは我慢し、成功へ向けての努力をすることです。戦後の全て失われた日本だって、皆で頑張って世界に誇れる日本を作って来たではありませんか。

少子高齢化は日本だけのことではありません。諸外国でも特に先進国と呼ばれる国ではその悩みを抱えています。そしてこの問題には特効薬はないのです。少子化に歯止めをかけることはやってきました。けれども、現実としてはとにかく人口は減少していく、ということになります。

結婚願望がなく経済的に子供を持たないなどと言っているなら、減っていく人口と高齢化していく国を是認して、従来までの施策ではない“新しい仕組み”を考えることです。

若い人たちに希望を捨てさせないで元気に働いてもらう、そのための仕組み作りが必要でしょう。今は健康年齢とでも云うものは確実に上がっています。昔の 60 歳は今 70 歳かもしれません。

今年 4 月、65 歳までの雇用延長の法令化が実現します。その人達に一步引いて働いてもらうのではなく、生きた労働力として第一線でも活用して行くことです。それには世界で使ってもらうのを日本国内で生産すること、それは日本国製造業の空洞化の防止にもなります。仕事を増やすことができれば若者の職場を侵害することもない筈です。そして、仕事の棲み分けもできてくるのではないのでしょうか。

熟練さの必要な仕事があり、“いや若い者に負けないぞ”の自負心があればきっと良い仕事もでき、そして我慢することだって若者以上かも知れません。部長でも課長でもなくてもいいではないですか。「年寄りの冷水」なんて言わずに楽しんで仕事ができる雰囲気と場所を考えましょう。

ところで、私の会社ではインドネシアに現地工場があり、そこでは 600 人のインドネシア人が

働く中、たった 5 人の日本人が日本のノウハウと資金と資材を使って頑張っています。

国内生産の海外シフトが進んでいるようですが、生産が海外シフトしても働く人の海外シフトはコスト面等々考えると簡単には進めていけません。繰り返しになりますが、日本国内で生産すること、そして日本人に仕事をして貰うこと、仕事を与えること、そこから始めていこうではありませんか。

その為にも、10 年で 10 人の首相では信用出来ないと、世界で馬鹿にされない政治をして貰わなければなりません。しかしながら議員削減、小さな政府、動ける官僚組織など、改革には難問山積です。

極めて勝手ですが、80 歳の私にはそれを推進する力はありません。でも協力したり、我慢することはできます。そして、若い世代に出来るだけ世話をかけないで生きていく年寄りでありたいと思います。その中に日本国の栄光が見えて来ること、それが 2013 年の私の初夢です。株価の上昇、為替の改善、仕事をする政府に期待したいと思います。

芽は出始めていると思います。「悪夢」から覚めたのですから。

(芝浦シェアリング㈱・会長)

『チャンス捕捉の備えを』

理事・総務委員長

笹田 幹雄

新年、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

年頭の挨拶を寄稿するに当たって、全国厚板シェアリング工業組合の一員として、やはり昨年の概括と昨今の環境認識に立った今年取り組み、心構えを示すのが常識的なところかなと思います。確かに、過去の総括はすでに起こったことだけに正しく事実を述べる事が出来ます。

しかし、昨年、私事ながら還暦を迎えましたが、未だ十干十二支を一巡しても年始に予想した環境認識がその年を通しては当たらず、想定外の出来事が次々に発生し、前提を覆す感覚を持ちます。このため、最近ではどのような『不透明な環境』にも対応できるように、販売・製造体質強化を内向きに謳うことになるわけですが、これでは毎年言うことは変わらず、ともすれば縮み思考となるのを免れません。

ということで、年初と言うこともあり今年は少々、明るい予測をしたいと思います。

昨年は、長引く欧州財政危機や中国経済の失速、さらには超円高の継続や隣国との関係悪化、加えて決められない政治（の混迷）の下で厳しい経営を強いられました。そうしたこともあり、昨年の年始早々の為替は 77～78 円/\$、日経平均は 8,500 円前後でしたが、漸く年末の衆院解散、それに伴う総選挙、政権交代で政治の安定が望めるような状況になってきました。そして、直近（2012/12/20 現在）では為替が 84 円/\$、株価はほぼ一万円となりました。

さらに、2013 年夏には参院選挙が行われ、ここでは安倍政権の業績評価が行われますので、新政権では是が非でも経済の好転を年始より図るため、大型補正予算や国土強靱化対策などの予算化を継続的に行うことになると思います。

また、工業組合としても建設関連では今年から、首都圏や名古屋地区の再開発や立替工事に始まり、今年度 1 Q 以降大型物件が順次発注見込みとなり、復興需要も継続しており需要増が見込まれます。なかには、アメリカで『財政の崖』の対応を誤ると景気のマイナス要因となる可能性もあると思いますが、総じて景気の回復で需要動向は好転するのではないかと考えられます。

工業組合参加各社のテリトリーでは、需要の濃淡はあると思いますが来るべき時に備えて、チャンスを逃がさない備えも常に考えておく必要があると思います。

そして、今年は、今までの低迷した需要に対応し、身を縮めてきた悪影響が出ないように何をなすべきかを考えるのが肝要かと思われまます。

現状は、厳しい時期が続いておりますが、良い兆候を上手く捕らえて発展する年になるように期待して、私の新年の挨拶にさせていただきます。

(JFE 鋼材㈱・社長)

『今年は何期待できるか？』

理事・新潟支部長
真柄 修

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、まず昨年を振り返ってみると、円高状況は是正されず、その結果として日本企業の競争力は削がれ、国内離れが一層進展したのではないかと。

一部の著名企業が国内にて、工場の新設はありましたが、多くの企業は、国内にての新規投資を控え、新たな発展を模索し、海外投資に踏み切っていると思われま。

現に、昨年当社が手掛けた新設工場向けの溶断加工は、1-2 件でした。建築案件の大半が流通倉庫、都市再開発案件等々であった。製造業の空洞化が本格化しているように思われま。

欧州の金融不安は、未だ続いており、その影響が新興国に波及し、彼の国々の成長を鈍化させている状況も変わってないと思われま。特に欧州依存度の高かった中国経済の成長率は、減速傾向であり、日本の各産業に処々の影響を与えていました。特に、我々のユーザーである建機関連業界の生産減を誘発したと思われま。

そんな不透明な状況の中、昨年 9 月に、日本経済の悪化に追い打ちをかけるように、尖閣問題が発生しました。一連の反日デモ、反日暴動。そして日本製品の不買運動の高まり。領土問題に主張の対立があっても、その不満を暴力に訴える姿勢には、納得しかねますが、日中の多くの産業に重大な打撃を与えた事も事実であります。

さて、新年を迎え、我々を取り巻く環境は変わるのでしょうか。

円が相変わらず高い状況で推移していますが、一昨年の 75 円/\$ に比較すれば、若干、緩和傾向にはあります。だからといって、海外進出した工場が、国内に帰ってくるとは考えられま。

しかしながら、超円高に苦しめられていた日本企業の国際競争力は徐々に高まり、国内生産も回復して来る可能性はあります。

マスコミ等で経済専門家と言われるエコノミストの方々も、本年の世界経済が、高成長軌道に乗るとの見立ては、ほとんどありませんが、昨年冷え切った日中関係は、時間の経過もあり、多少なりとも良化し、両国の経済回復に寄与して来る可能性はあります。

円高の是正、日中関係の良化傾向、来年実施予定の増税前の駆け込み需要の盛り上りにより、今年は、製造業を中心とした国内投資が活発化する可能性があります。また、震災復興関連需要も本格化して来るでしょう。

そうなれば、我々の業界も昨年よりも明るい一年となるでしょう。

2008 年のリーマンショック後、ここ数年の年明けは、暗い話題が続いていたので、初夢かも知れませんが、期待を込めて占ってみました。

(新潟スチール(株)・社長)

『新春に 名古屋人 総徳川宗春化計画』

副理事長・東海支部長
高木 唯夫

皆さん、明けましておめでとうございます。

去年は、当地の主要産業である自動車業界が後半失速し、関連の設備投資も少なく、また、大きな建築案件も無いことから、「ものづくりの街」も何か寂しい1年でした。ただ、年末になると当地の玄関口である名古屋駅前の景色が変わり、未来に期待を持たせる風になってきました。3つの建築大型案件の解体・地下工事が進み、2016年のオープンに向けた動きが活発になってきたのです。年末の政権交代もあり、これで景気回復の為の、器・仕組みが整い、あとは上昇を待つだけの筈ですが・・・。

ただ、私はまだ何か足りないと思うのです。それは、個人の前向きな心ではと。当地、名古屋で景気回復を論じていると必ず取り上げられるのが、「尾張藩第七代藩主 徳川宗春」です。宗春の姿勢こそが今一番欠けているのではないかと。

皆さんご存知の通り、宗春は八代将軍吉宗・享保の改革の時代に、幕府の質素儉約規制強化を無視し積極財政を推し進めた人物であります。白い牛に乗り、長いキセル、大きな唐人笠で歌舞いている姿が有名ですが、祭り、芝居を奨励し連日花火を打ち上げ、お金が廻る仕組みを作り、名古屋の街を活性化させました。活気のある名古屋に人が集まり、火の消えたような江戸、京とは対照的となったことから、幕府に睨まれ最後は失脚してしましますが、幕府がおそれるほどの政策であったということだと思われれます。尾張藩は九代藩主宗睦が中興の祖といわれていますが、地元では宗春が圧倒的な人気者であり、功績の証として「芸どころ」名古屋があり、祭の山車に乗せたからくりの技術が今日の「ものづくり」に繋がっているとされています。

最近、「国が頼りない」「国が何もしてくれない」ということをよく聞きますが、貴方自身が大先輩 宗春になって景気回復させてみませんか。名古屋人全員が宗春になれば、再び名古屋に元禄の世が訪れ、新たな「ものづくり」の歴史が始まるものと思います。

名古屋をはじめ東海地区が繁栄し、日本の中心となることを夢見つつ

皆様、本年もよろしく願いいたします

(三和鐵鋼(株)・社長)

『歴史に思う』

副理事長・大阪支部長

浅野 博之

明けましておめでとうございます。

穏やかで清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて私は、昨年 4 月に大阪に赴任し、厚板シヤリング業界の一員となりました。厚板関係の仕事に就くのは約 10 年ぶりのこと。これまで、関西には余り馴染みがなく、大阪に住むのも初めてのことで、当初戸惑いもありましたが、今ではすっかり大阪弁にも慣れ、少しずつ行動範囲も広がりつつあります。大阪に赴任して分かったことの 1 つは、歴史や文化がとても身近にあること。大阪市内からは、京都、奈良、神戸がいずれも電車で 1 時間以内の距離にある。早速、大阪に赴任後、京都は約 30 年ぶり、奈良は中学校の修学旅行以来となる 43 年ぶりに訪ねてみた。興福寺の千手観音や阿修羅像、薬師寺の日光・月光菩薩、正倉院展の宝物を始め、数々の歴史や文化財に彩られた古都は、3, 40 年前とは全く違った印象で心に迫ってくる。改めて歴史や文化を学び直そうと思わせるのにそう時間はかからない。

しかし、歴史は何も京都・奈良だけではない。我が社の歴史についても調べてみようと思立った。残念ながら社史の様に整理されたものは残っていないが、概要だけはすぐに分かった。全国厚板シヤリング工業組合のホームページによると、我が国のシヤリング業の起源は、古川庸男が明治 42 年（1909 年）に大阪北区堀川町でシヤリング業を開店したことを、その創始としている。現在の（株）シーヤリング工場である。それに遅れること 5 年、大正 3 年（1914 年）に、奥小路民蔵が大阪市西区境川にて創業した。その後、統合・合併を繰り返し、社名も変わったが、これが現在の（株）日鐵神鋼シャーリングである。当社は今年で創業 99 年。まさに我が国シヤリング業の草分け的存在である。シヤリング業の急速な発展は、戦後の復興から高度経済成長期にかけてであり、この時期に創業された会社は実に多い。大阪支部でも半世紀を超える歴史を刻む会社は少なくない。半世紀の歴史は長く、重い。この間には、時代の変化と共に、数多くの環境変化があり、また数多くの困難と歓喜とがあったはずだ。その荒波をしなやかに乗り切った会社だけが、今、半世紀の時を超えて存続している。

俳人・松尾芭蕉の芸術論を表す言葉に「不易流行」がある。いつまでも変化しない本質的なもの（不易）の中に、時代に応じて変化するもの（流行）を取り入れてゆくことこそが、不易の本質である、と解釈されている。かなり難解な言葉であるが、つまりは、本質を失うことなく、時代の変化に柔軟に対応することこそが永続の極意である、との意と解釈している。長い歴史のある会社は、時代の変化に柔軟に対応しながら、少しずつ姿を変えてきたはずであり、その意味で、まさに不易流行を実践してきた会社である。

そして、時代はまた、新たな局面を迎えている。鉄骨・橋梁の発注量は 10 年前の半分になり、

短納期が常態化し、ピークダウンが激しくなった。要求品質は上がる一方で、単価は下がり続けている。昨年のお阪地区は、梅田北ヤードを始めとした大型開発案件の終息もあり、とりわけ冷たい北風が身に染みる。

今年は暖かい南風が期待できる地区もあろうが、大阪地区はそれも多くは期待できない。しかも、最近の南風は必ずしも暖かくはない。一段と厳しい環境に身を置く我々は、公助とも言うべき国の経済対策だけを期待しては生き残りは難しい。何よりもまず、個社の強みとも言うべき本質を生かしながら、時代の変化に柔軟に対応した体質改善や個社独自の経営改革を進める自助努力が必要である。その上で、業界団体活動として、個社単独では難しい課題や、他社の参考になる事例の横展開などの共助も併せて、しなやかに生き残りを図ることが大事であり、まさにその共助こそが、業界活動の意義と捉え、2年目となる大阪支部活動に取り組んでゆこうと思う。

歴史の上に現在があり、未来がある。我が国の歴史、シャリング業の歴史、そして我が社の歴史を訪ね、時代の流れを読みつつ、明日への1歩を踏み出す。そんな1年に今年をしたいと思う。

本年が皆様にとりまして、素晴らしい1年となりますことを祈念し、新年のご挨拶と致します。

(株)日鐵神鋼シャリング・社長)

『金融化の只中で』

理事・中国支部長
浅利 重法

あけましておめでとうございます。

昨年辰年のこの稿では業績が竜頭蛇尾にならないようにと願いましたが、当社の場合は年後半の造船の船型小型化によりその通りとなりました。巳年の今年は出足低調、夏場には大型タンカーの建造があり、その後は不透明ということで‘つちのこ’みたいな感じでしょうか。

昨年末の出来事二つに触れますと、まずサッカーJ1 でわがサンフレッチェが J1 創設 20 年にして悲願の優勝！いくつかの強豪チームに優勝を盥回しにされていたなかでの快挙で、地域全体に大きな勇気と感動を与えました。

一方野球のカープは戦費・戦力不足で昨年も B クラス、金に物を言わせて他球団の 4 番やエースをかき集める金満球団にはどうしても長丁場では勝てない。サッカーでも欧州リーグでは金の力がものを言うようです。

二つ目は衆院選圧勝自民党政権のアベノミックス。

賛否はありますが必要な国土強靱化で土木・建築需要が喚起されることを願います。為替や株価は好感し期待値は高いようですが、金融緩和で金が使われるべきところに行き渡らず、またマネーゲームの原資になりはしないかと危惧します。年始の TV の経済番組で 2013 年の世界経済の懸念は、米国の財政の崖による経済不安、欧州の金融不安、アジアの成長鈍化でしたが、ミコ（スポーツの世界）もマコ（経済）もお金が支配する世の中であることを痛感します。

金融業というのは市民の幸福のために本当に役立っているのでしょうか。「金融が乗っ取る世界経済／ドナルド・トランプ—中公新書」が分かりやすかったので以下引用します。

「金融化」は金融市場、金融企業の役割や一般人の金融利益を目指す動機付けが増していく過程と定義されています。“実体経済において、モノやサービスを生産・消費する人々が必要とするのは、①融資、②貯蓄に対する利回り、③不確実性に対する保険である。〈これは自社の例でも運転資金の借り入れ、経営者保険などがあり、為替についても取引先の造船会社のドル予約など実体的に理解できます〉

金融業者は、貯蓄者・投資家とこれら融資や保険を必要とする実体経済の担い手との間に投機的な市場をつくり、実体経済とかけ離れた桁違いの金を動かし大儲けをする。

2007 年の調査・推計では、‘金融派生商品’の契約残高 500 兆ドルは世界 GNP の 8 倍！ 為替取引については、毎日の売買総額 3.2 兆ドルは毎日の国際貿易の総額の 100 倍！ これは実体と無関係の金融業者同士の取引が大半で、ゼロサムゲーム—価値は創造せず膨大な手数料は事業会社・輸出入業者の負担。

総括すれば金融化は、①格差拡大、②不確実性・不安の増大、③知的能力資源の配分への影響、④信用と人間関係の歪みをもたらし、中流階層の崩落・不安定化をもたらす……”

為替の専門家たちの破格のボーナスも、銀行管理職の報酬がメーカーの管理職の3割増しであることも仕方ないと思っていましたが、金融業の利益の一部は産業界からの不当な移転であり、産業従事者は額に汗した分を差っ引かれるというのは不快です。

何よりも社会安定化のために中流階層の崩落は避けなければなりません。

某データでは我が国の正社員の年収は3年連続減。職種別には販売・サービス系 331 万円(-10)、企画・事務系の補佐職 312 万円(-8)、水準が高いのは、金融系で投資銀行業務 986 万円 運用 777 万円など。ワーキングプア問題もあり、やはり看過できません。貯蓄から投資へのキャンペーンなど金融化の流れ、新政権の金融規制の動向などを産業人の一人として注視していきたいと思います。

当社においては、幸いにして株主による利益最大化圧力で従業員のリスクが増大することはありませんが、親会社から（金融化の一環としての）内部統制の強化を命じられ、財務監査・指摘事項への対応—不祥事を防ぐ業務システム構築などに取り組んでいます。

最近のコラムで、「中国の田舎のデパートでは、売り場でお金を払ってモノを買うことはできない。売り場でその商品の伝票を書いてもらい、別の場所のレジで金額を払い、領収書をもって売り場に戻りはじめて買える。従業員を信用しない面倒極まりないしかけに呆れる。」とありましたが、まさにこれと似たようなことを今粛々とやろうとしているのです。内部告発ホットラインの活用も然り。

経営者として、75名の村落共同体のような血の通った組織を標榜する者として、素直に受け入れたくはありません。時代が金融化の只中にあることを改めて認識したうえで、中小企業経営者として、顧客と従業員と地域を大切に‘つちのこ’の一年を乗り切っていきたいと思います。

(太陽シャ어링(株)・社長)

『巖流島』にて新春を祝う

副理事長・九州支部長
木村 昭夫

明けましておめでとうございます。

新年早々、思いを新たに、「巖流島」に渡った。

下関の唐戸棧橋より乗船し約 10 分で到着。

ご承知の通り「巖流島」は、宮本武蔵と佐々木小次郎がお互いの生命をかけて戦った島である。飾り気のない、本当に小さな島であるが、小職は上陸するといつも何故だか身震いが起こる。

古きは、東映の「巖流島の決斗」で中村錦之介(武蔵)と高倉健(小次郎)が演じ、子供の頃胸をドキドキさせていたのを思い出す。そしていつの日か、その「巖流島」に行ってみたくて夢を持っていた(もっと古きは、片岡千恵蔵(武蔵)と月形龍之介(小次郎)の名演技)。新しいところでは、2003 年の NHK 大河ドラマで市川海老蔵(武蔵)と松岡昌宏(小次郎)が話題をさらった。今も昔も役者が皆“いい男”なので引き付けられるものがあつたのであろうか。

決闘は 1612 年の 4 月 13 日に行なわれた。昨年(2012 年)は、ついに 400 周年を迎えた。当人達は「何が 400 周年だ」と怒っているかも知れない。

“チャンバラごっこ”で遊んでいた子供の頃のあこがれの島は、いい歳になった現在の小職を益々引き付ける様になった。従い、昨年は何度も「巖流島」に足を踏み入れた。

目的は“心を鎮め、元気をいただく”為である。観光地化しようの無い、全く何の変哲もないこの小さな島に佇んでいると、波の音しか聞こえてこない。その波の音色は、静かなリズムであったり、激しい音楽であったり、やさしい言葉であったり、時には厳しい言葉になったり、ストレートに小職の頭に刻み込まれる。集中して耳を澄ませていると、心が洗われそして気力が湧いてくる。雨の日、風の日、快晴の日、それぞれ異なった何かを「巖流島」は小職に教えてくれる。

佐々木小次郎は、「燕返しの術」や「虎切りの太刀」を磨きに磨き、宮本武蔵は、勝つ為の戦法を考えに考え抜き、「櫂でこしらえた木刀」を持って戦った。両者共、対策に対策を練った。

私達は毎日戦っている。稽古をしている訳ではない。受注量、受注価格、仕入価格、在庫量、在庫の評価額、製造コスト、輸送コスト、そして安全、品質、納期。製造量の山・谷、歩留りにも。毎日真剣勝負。対策の実行に気力が欠け、現実を直視出来なければ結果は明白。偶然は長くは続かない。

さあ 2013 年が始まった。「巖流島」に一礼し、また学びに来ることを誓った。

今年は全国厚板シェアリング工業組合員にとって混迷の一年にならない様に、そして本当に良い年になります様に。

(豊鋼材工業(株)・社長)